

大学キャンプ実習が参加者の一般的因果律志向性に及ぼす影響

蓬田高正・吉田 充*・加藤 譲*

Effect of College Camp Course on the General Causality Orientations of College Students

Takamasa YOMOGITA, Makoto Yoshida, Jo Kato

The purpose of this study was to examine the effect of college camp course on the general causality orientations. The subjects were 28 college students in experimental group who participated in college camp course and 83 same grade college students in the comparative group who did not. To measure the general causality orientations, General Causality Orientations Scale developed by Tanaka et al was used. It was administered before, after and one month after the camp. The following results were obtained: 1) Experimental group tended to improve autonomy orientation than the comparative group. 2) Experimental group and the comparative group tended to increase in control orientation. 3) Experimental group did not showed significantly greater decrease in impersonal orientation than the comparative group.

The result suggested that college camp course experience tended to influence on positive direction of autonomy orientation in the participants.

Key words: college camp course, college students, causality orientations

1. 序 論

現在の大学教育では、初等中等教育における自ら学び、自ら考える力の育成を基礎に「課題探求能力の育成」を重視することが求められている¹⁾。そうした自ら学ぶ力や課題探求能力は、自発的な取り組み、つまりはその行動自体が「報酬」でその行動をするという内発的動機づけとして捉えることができよう。内発的動機づけについての概念化は、主に最適

不適合あるいは最適覚醒に基づくアプローチと、有能さ（コンピテンス）と自己決定に基づくアプローチがあり、有能さと自己決定に基づくアプローチによるものが有力である²⁾。このうち、後者の有能さと自己決定を内発的動機づけの源泉と考えるアプローチは、Deci³⁾によって詳細な理論化が進められ、以来、活発に論議されている。

Deci & Ryan⁴⁾は、内発的動機づけを個人差の側面から捉え、有能さと自己決定の有無によって、パーソナリティ特性としての動機づけ傾向を三つのタイプに類型化している。そ

*青山学院大学

れらは、有能さと自己決定がともに高い「自律志向性 (autonomy orientation)」, 有能さは高いが自己決定が欠如している「コントロール志向性 (control orientation)」, 有能さと自己決定がともに欠如している「動機づけ喪失志向性 (impersonal orientation)」である。動機づけのエネルギーと方向性という観点から捉えるならば、自律志向性は内発的に動機づけられやすい傾向が、コントロール志向性は外発的に動機づけられやすい傾向がそれぞれ強いパーソナリティ特性である。また、動機づけ喪失志向性は動機づけが生じにくい、いわゆる無気力傾向の強いパーソナリティ特性である。彼らはこれら三つの志向性をまとめて、「一般的因果律志向性 (General Causality Orientations)」と概念化し、尺度を開発している。

教育的キャンプは、多くの教育的効果が期待でき、その一つとして自ら進んで挑戦する達成動機に関する自己概念の向上が挙げられる。これまでの大学生の教育的キャンプにおける動機づけへの効果について、いくつかの報告がある。遠藤・北谷⁹⁾、遠藤・築山¹⁰⁾は大学キャンプ実習が自己概念に与える効果を検討し、達成動機に効果があることを報告している。動機づけを有能感・自己決定感として捉え、キャンプ実習が大学生の動機づけに及ぼす影響について検討した蓬田¹¹⁾は、有能感のみ向上したと報告している。そしてその影響の要因として、遠藤・北谷⁹⁾は困難の克服、蓬田¹¹⁾は成功体験や仲間同士の賛辞をそれぞれ挙げている。しかし、パーソナリティ特性の観点から動機づけ様式を類型化した一般的因果律志向性に関する研究は見あたらない。

そもそも教育的キャンプは、自然と人間という要素が複雑に影響し合いながら、様々な心理的作用が働き、動機づけに関する自己が変容していくと考えられる。キャンプ実習における困難の克服や成功体験は有能感を、自主性や困難に対する自己制御は自己決定感を

それぞれ育成し、自律志向性が向上、コントロール志向性及び動機づけ喪失志向性が低下するものと考えられる。

本研究では、大学キャンプ実習が参加者の一般的因果律志向性に及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。

そこで、本研究の目的を検証するために以下の仮説を設けた。

仮説1) 大学キャンプ実習に参加した大学生は、参加しなかった大学生より自律志向性が向上するだろう。

仮説2) 大学キャンプ実習に参加した大学生は、参加しなかった大学生よりコントロール志向性が低下するだろう。

仮説3) 大学キャンプ実習に参加した大学生は、参加しなかった大学生より動機づけ喪失志向性が低下するだろう。

2. 研究方法

2.1. 被 検 者

2001年度 A 大学体育実技 B「キャンプ」に参加した大学一年生52名(男子22名, 女子30名)を経験群とした。

対照群は、キャンプ実習に参加していないT大学の「テニス」「ソフトボール」「空手」を履修した大学一年生112名(男子70名, 女子42名)である。

なお、大学キャンプ実習1ヶ月後に検査用紙を回収できなかった者24名、また、対照群に対して、調査期間中にキャンプに行ったかどうかを尋ね、「はい」と答えた者29名を除いて処理を行った。表-1. に被検者の内訳を示す。

表-1. 被検者の内訳

	経験群	対照群
男子	8	48
女子	20	35
合計	28	83

2.2. キャンプの概要

2.2.1. 目的

キャンプの目的は、1) 自然の中での生活技術、野外活動技術の習得をはかる 2) グループ活動を通じて、自分を含めて人間を見直す機会をつくる 3) 自然と人間のかかわりあいについて考える機会とする。

2.2.2. 班編成と指導者

参加者は1班5～8名で男女混合からなる8班で編成された。指導は野外教育を専門とする大学教員が当たった。

2.2.3. プログラム

キャンプ実習は、2001年8月19日から24日(5泊6日)にかけて、群馬県立パラキ野外活動センターで実施された。プログラムは台風の影響により、当初の予定が大幅に変更され、メインプログラムであるサバイバルハイクが中止された。主なプログラムはイニシアティブゲームを取り入れた冒険ゲームハイク、食事コンテスト、キャンプファイヤーなどで構成されている(表-2)。

・天候

3日目の午後から小雨となり、夜になってキャンプサイト内が水浸しになるほどの豪雨となったが、4日目の午後には止み、夕刻には晴れた。1・2日目は曇り、5・6日目は晴れであった。

表-2. キャンププログラム

	午前	午後	夜	宿泊形態
1日目			集合・出発	車中泊
2日目	テント設営 開講式	環境整備	ボンファイヤー	テント泊
3日目	冒険ゲーム ハイク	サバイバル テクニク	班別 食事コンテスト	テント泊
4日目	キャンプセンター に避難	バードウォッチング	星空観察	キャンプセンター
5日目	環境整備	周辺をハイク	キャンプ ファイヤー	テント泊
6日目	撤収、閉 講式			

2.3. 検 査

参加者の一般性因果律志向性を測定するために、田中・桜井⁹⁾が作成した「一般性因果律志向性尺度」(巻末資料参照)を用いた。

この尺度は、任意の状況を提示した短文の後に、自律志向性、コントロール志向性、動機づけ喪失志向性を示す行動(または考え)を表現した項目があり、それらの項目に自分がどの程度当てはまるかを4段階で評定する尺度である。状況文は転職、テスト、計画の依頼など多岐にわたる12の短文である。得点は、それぞれの項目(志向性)に対し「よく当てはまる」を4点、「かなり当てはまる」を3点、「少し当てはまる」を2点、「全く当てはまらない」を1点とした。従って可能な尺度得点は、各志向性とも12-48点であり、すべて高得点ほど、各志向性が高いことを意味する。

また、考察の際、実習後の参加者の感想文を参考資料として用いた。

2.4. 検査の手続き

経験群には、一般性因果律志向性尺度をキャンプ実習2ヶ月前(以下、Pre1とする)、キャンプ実習直前(以下、Pre2とする)、キャンプ実習直後(以下、Post1とする)、キャンプ実習終了1ヶ月後(以下、Post2とする)の4回実施した。対照群には、一般性因果律志向性尺度をPre1、Post2と同時期に2回実施した。

検査にあたっては、Pre1は事前オリエンテーションの直後、Pre2はキャンプ実習出発直前、Post1は帰路のバスの中で、検査用紙を配布して説明文を読んだ後、全員一斉に実施した。Post2は郵送法で行った。回収率は53.8%(28/52人)であった。対照群はPre、Post2共に授業時に全員一斉に実施した。回収率は100%であった。

2.5. 統計的处理

経験群の Pre1, Pre2, Post1, Post2, 対照群の Pre1, Post2における自律志向性, コントロール志向性, 動機づけ喪失志向性得点の平均と標準偏差を算出した。キャンプの影響を検討するため, 群(経験群・対照群)と測定時期(Pre1・Post2)を要因とする二要因の分散分析を行った。さらに, キャンプによる得点の変化を検討するため, 経験群の4回の測定時期を要因とした分散分析を行った。

これらのデータの分析には主に SPSS for Macintosh を用いた。

3. 結果

3.1. 自律志向性の変化

表-3 に経験群と対照群の自律志向性得点の平均と標準偏差を示し, 図-1 にその変化を示した。

自律志向性得点の変化について, 二要因の分散分析を行った結果, 交互作用は有意傾向であった ($F(1,109)=2.81, p<.10$)。

表-3. 自律志向性得点の平均と標準偏差

	経験群(N=28)		対照群(N=83)	
	Mean	SD	Mean	SD
Pre1	36.42	4.32	35.83	5.53
Pre2	37.15	5.54	-	-
Post1	37.96	4.74	-	-
Post2	37.89	5.86	35.31	6.36

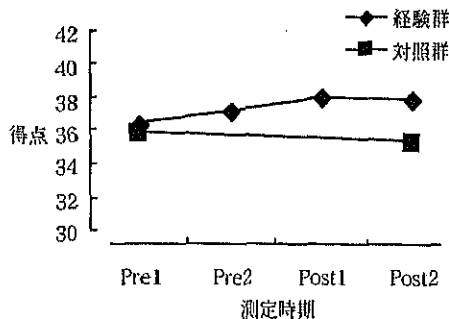


図-1 自律志向性得点の変化

そこで, 各要因の単純主効果を分析した結果, 群の Post2 ($F(1,109)=3.52, p<.10$), 及び測定時期の経験群において有意傾向が見られた ($F(1,109)=3.05, p<.10$) ($MSe=14.83$)。

次に, 経験群の自律志向性得点の変化を検討した結果, 測定時期の主効果に有意差は見られなかった。

3.2. コントロール志向性の変化

表-4 に経験群と対照群のコントロール志向性得点の平均と標準偏差を示し, 図-2 にその変化を示した。

分散分析の結果, コントロール志向性得点の測定時期の主効果は有意傾向であった ($F(1,109)=3.73, p<.10$)。

さらに, 経験群について, 一要因の分散分析の結果, 有意差は認められなかった。

3.3. 動機づけ喪失志向性の変化

表-5 に経験群と対照群の動機づけ喪失志向

表-4. コントロール志向性得点の平均と標準偏差

	経験群(N=28)		対照群(N=83)	
	Mean	SD	Mean	SD
Pre1	27.10	3.88	27.04	5.23
Pre2	27.79	4.56	-	-
Post1	27.22	4.26	-	-
Post2	28.29	4.69	28.10	5.03

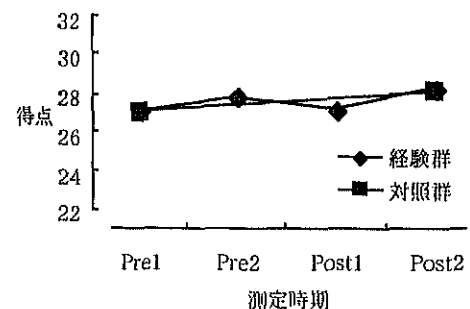


図-2 コントロール志向性得点の変化

表-5. 動機づけ喪失志向性得点の平均と標準偏差

	経験群(N=28)		対照群(N=83)	
	Mean	SD	Mean	SD
Pre1	21.99	4.01	23.51	4.70
Pre2	22.44	4.05	-	-
Post1	21.59	4.11	-	-
Post2	22.21	4.93	25.80	5.42

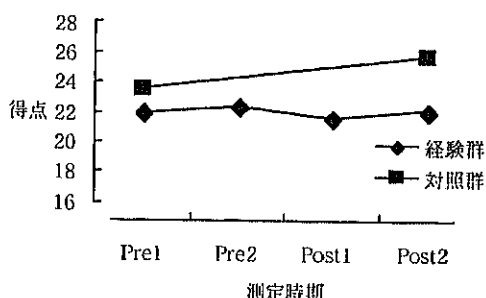


図-3 動機づけ喪失志向性得点の変化

性得点の平均と標準偏差を示し、図-3にその変化を示した。

動機づけ喪失志向性得点に関しては、分析の結果、群と測定時期の主効果と交互作用に有意差が認められた (群: $F(1,109)=7.21$, $p<.01$, 測定時期: $F(1,109)=6.02$, $p<.05$, 交互作用: $F(1,109)=4.07$, $p<.05$)。

測定時期の単純主効果について、対照群に有意差が認められた ($F(1,109)=10.01$, $p<.01$)。また、群の主効果は Post2において、対照群が有意に高かった ($F(1,109)=9.43$, $p<.01$) ($MSe=10.97$)。

経験群の動機づけ喪失志向性の変化を検討するため、測定時期を要因とする分散分析を行った。その結果、有意差は認められなかった。

4. 考 察

4.1. 自律志向性

自律志向性について、対照群はほとんど変化を示さず、経験群が向上はしたものの、有意傾向であった。以上の結果より、仮説1)は支持された。

経験群が向上する傾向が見られた要因として、人間関係ストレスの克服体験が挙げられよう。参加者は、大学に入学して五ヶ月しか経っていない大学一年生であった。また班分けにおいて、できるだけ初対面の人たちとグループを組むように配慮された。そういった状況の中で、参加者は初対面の人たちとうまくやっていけるかといった人間関係のストレスを感じていたことは、ほとんどの参加者が感想文の中でそのことに触れていたことから伺える。そして、仲間づくりを目的とした冒険ゲームハイクや食事作りなどのプログラムを通じて、人間関係のストレスを克服し、班としてのまとまりや協力する姿が観察された。

Deci⁹⁾は「情報的な環境を経験することによって、内発的動機づけや行動制御の内面化を含む自律志向性が発達する。」とし、その情報的な環境として、自己選択ができるような環境、ある試みがその環境と効果的に作用するのに有効な情報が提供されている環境を挙げている。

そういったストレス克服が成功体験や満足感といった正のフィードバックとして有効な情報となり提供され、自律志向性が向上する傾向が見られたものと思われる。

自律志向性が高い者は、自分が果たして何者であるかということとの関連において、自分自身を受け入れようとする傾向があることから⁹⁾、自己を見つめ直すことを目的としたソロ活動を含むサバイバルハイクが実施されていれば、さらなる向上が見られたのではないかと推察されるが、その点については今後の課題にしたい。

4.2. コントロール志向性

コントロール志向性は、両群ともに得点の上昇は見られたが、有意水準には到達せず、キャンプ実習による効果は見られなかった。以上の結果より、仮説2)は支持されなかった。

その要因としては、今回のキャンプ実習では、天候の悪化により、本来自主的に判断し活動するように指導すべきところを、スタッフから指示を出す場面が多く見られ、そういった状況が自らの行動が自己選択ではなく、他者にコントロールされていると感じられたのではないかと推察される。

また、対照群の結果も併せると、コントロール志向性の高まりは大学入学当初に見られる傾向なのではないかと思われるが、それに関する研究は見られなかったため、その辺の関連も今後検討する必要がある。

4.3. 動機づけ喪失志向性

動機づけ喪失志向性について、経験群はほとんど変化を示さず、対照群が有意に高まった。以上の結果から、仮説3)は支持されなかった。

その要因としては、有能感の向上が見られたものの、それに対して自己決定感の向上が見られなかったことが挙げられる。コントロール志向性の考察においても述べたが、スタッフからの指示が多く、他者にコントロールされているという感覚が自己決定感を低下させ、ストレス克服体験によって有能感が向上したものの、相殺されて動機づけ喪失志向性はほとんど変化がなかったものと考えられる。

5. 結 論

本研究は、大学キャンプ実習が参加者の一般的因果律志向性に及ぼす影響を検討した研究である。その結果、以下のことが明らかになった。

1) 大学キャンプ実習に参加した大学生は、大学キャンプ実習に参加していない大学生と比較して、自律志向性が向上する傾向があった。

2) 大学キャンプ実習に参加した大学生及び大学キャンプ実習に参加していない大学生共に、コントロール志向性が向上する傾向が見られた。

3) 大学キャンプ実習に参加した大学生は、大学キャンプ実習に参加していない大学生と比較して、動機づけ喪失志向性の低下が見られなかった。

引用文献

- 1) 大学審議会：21世紀の大学像と今後の改革方策について（中間答申）. 1998.
- 2) 櫻井茂男：内発的動機づけのメカニズム—自己評価的動機づけモデルの実証的研究. 1-45. 風間書房. 1990.
- 3) Deci, E. L. : Intrinsic motivation. New York : Plenum Press. 1975.
- 4) Deci, E. L. & Ryan, R. M. : The general causality orientation scale : Self-determination in personality. Journal of Research Personality. 19 : 109-134. 1985.
- 5) 遠藤 浩・北谷 崇：大学キャンプ実習の効果に関する研究—自己概念と自己実現の変化から—. 野外運動研究. 7(1) : 9-16. 1994.
- 6) 遠藤 浩・築山泰典：アドベンチャープログラム参加学生の自己概念とタイプ A 特性. 日本野外教育学会第四回大会研究発表抄録集. 30-31. 2001.
- 7) 蓬田高正：キャンプ実習が大学生の内発的動機づけに及ぼす影響. 日本野外教育学会第四回大会研究発表抄録集. 26-27. 2001.
- 8) 田中秀明・櫻井茂男：一般的因果律志向性尺度の作成と妥当性の検討. 奈良教育大学教育研究所紀要. 31 : 177-184. 1995.
- 9) Deci, E. L. : The psychology of self-determination. D. C. Heath & Company. 1980. 石田梅男（訳）：自己決定の心理学. 誠心書房. 東京. 1985.

記入年月日 平成____年____月____日

____学部 男・女 生年月日 昭和____年____月____日

1～12の下線の文章を一つずつよく読んで、そのような状況が、あなたに起こったと仮定してください。そして、①～③の行動（考え）が、あなたにどの程度当てはまるか、右下の表にそって当てはまる数字に○をしてください。正しいとか、間違った答えとかはありませんから、思った通りに答えてください。

1・・・全く当てはまらない
2・・・少し当てはまる
3・・・かなり当てはまる
4・・・よく当てはまる

1. あなたはしばらく勤めていた会社で、新しいポストへの異動が決まりました。あなたは最初に、どんなことを考えたり、思ったりしますか。

- ①新しいポストでその責務が果たせなかったらどうしよう、と不安になる。(I) [1---2---3---4]
 ②新しいポストで、今よりも良い仕事ができるかどうかを考える。(C) [1---2---3---4]
 ③新しい仕事が、自分にとって興味深いものかどうか、知りたくなる。(A) [1---2---3---4]

2. あなたには学校に通う娘がいます。参観日の晩、担任から「あなたのお子さんは最近成績が落ち込んできましたし、勉強に集中していないようです」と言われました。あなたは娘はどうしますか。

- ①娘の成績を落ちてきた原因について理解を深めるため、娘とじっくり話をする。(A) [1---2---3---4]
 ②娘を叱り、成績が良くなるのを待つ。(I) [1---2---3---4]
 ③娘は今よりも一生懸命勉強すべきであるから、宿題などをきちんとするように念を押す。(C) [1---2---3---4]

3. あなたは数週間前に就職試験を受けました。そして不採用の通知を受け取りました。あなたはまず、どんなことを思いますか。

- ①先方に、自分を見る目がなかったのだと思う。(C) [1---2---3---4]
 ②私はその仕事に向いていないのだろうと、あきらめる。(I) [1---2---3---4]
 ③どうやら先方には、私の能力を会社の要求にそぐわないものと見たようだ、と考える。(A) [1---2---3---4]

4. あなたは工場の監督者です。上司から同時に休むことのできない3人の労働者に、休憩時間をあてがうことを、言いつけられました。あなたはこれをどのように処理しますか。

- ①3人の労働者に事情を話し、こちらのスケジュールにそって自分と一緒に仕事をしてもらうように説得する。(A) [1---2---3---4]
 ②問題が起きないように、機械的に各人が休むことのできる時間を割り当てる。(C) [1---2---3---4]
 ③過去にどうしたか、今回はどうしたらよいかを上司から聞き出す。(I) [1---2---3---4]

5. あなたの親しい友人は最近情緒不安定です。何でもないことから怒りだしてしまいます。あなたはどうしますか。

- ①友人の最近の行動を思い出し、何が原因であるかを見つけ出そうとする。(A) [1---2---3---4]
 ②自分はどうすることもできないので、無視する。(I) [1---2---3---4]
 ③もし情緒不安定を直そうとする気があるのならば、自分は喜んで協力すると、その友人に告げる。(C) [1---2---3---4]

6. あなたは今、以前に受けたテストの答案を返してもらい、点数を非常に悪かったことを知りました。あなたはどうしますか。

- ①「何をやってもうまくいかないんだな」と、落胆する。(I) [1---2---3---4]
 ②「何でこんなに悪かったのだろう」と、反省する。(A) [1---2---3---4]
 ③「こんなつまらないテストで何がわかるというのだ」と、怒る。(C) [1---2---3---4]

7. あなたはほとんど知らない人ばかりが集まる、大きなパーティーに招待されました。あなたはその場で、どのような行動をしたいと思いますか。

①自分が楽しく過ごすため、周囲の人たちから悪く見られないために、その場にとけこもうと努力していると思う。(C) [1---2---3---4]

②話し相手を何人かみつめて、楽しんでいると思う。(A) [1---2---3---4]

③周囲の人たちとなじみず、孤立して無視されたような状態になっていると思う。(I) [1---2---3---4]

8. あなたは自分と仲間の従業員のために、ピクニックの計画を立てるよう頼まれました。あなたはどのように行動しますか。

①主に自分が計画を立てる。なぜならば、自分が思うとおりに計画が立てられるから。(C) [1---2---3---4]

②先例に従う。なぜならば、計画を立てる能力がないので、以前に行われた方法で行いたいから。(I) [1---2---3---4]

③計画作りに協力してくれる人を捜す。なぜならば、最終的な計画を立てる前に、その人たちの要望や意見を聞いて参考にしたいから。(A) [1---2---3---4]

9. 最近あなたの会社で、あなたにとって昇進となるポストが空席になりました。しかしそのポストは、あなたではなく同僚に与えられました。この状況をあなたはどのように考えますか。

[1---2---3---4]

①そのポストを本当に望んでいた訳ではない、と自分に納得させる。(I) [1---2---3---4]

②同僚はそのポストを得るために、上司に取り入ったに違いない、と推測する。(C) [1---2---3---4]

③この事実を謙虚に受け止め、今後に生かそうと考える。(A) [1---2---3---4]

10. あなたは新しい仕事に就こうとしています。どんな点に考慮して、仕事を選びますか。

[1---2---3---4]

①助けてくれる人がいなくても、うまく仕事ができるかどうか、という点。(I) [1---2---3---4]

②その仕事に自分がどれだけ興味もてるかどうか、という点。(A) [1---2---3---4]

③昇進の可能性が高いかどうか、という点。(C) [1---2---3---4]

11. あなたの部下に、いつもはきちんと仕事をしてくれる女性がいます。しかしここ2週間くらい仕事ぶりが悪く、彼女は仕事に対する熱意を失っているように思われます。あなたは彼女にどうしますか。

[1---2---3---4]

[1---2---3---4]

[1---2---3---4]

①彼女に対してこの2週間の仕事ぶりを告げ、一生懸命働くように忠告する。(C)

②彼女に何か悩みがあるなら、それを解決することにおいて努力は惜しまないと告げる。(A)

③彼女が熱意を回復するためにどうしたらよいかわからないので、そのままにしておく。(I)

[1---2---3---4]

12. あなたの会社はあなたを昇進させようと、現在の職場から、遠く離れた都会の職場へ転勤するように命じました。この転勤についてどう思いますか。

[1---2---3---4]

[1---2---3---4]

①仕事に対する多少の不安はあるが、新しい職場でがんばろうと思う。(A) [1---2---3---4]

②高い地位と高い給料に興奮する。(C)

③ストレスや不安が高まると思う。(I)

注) (A) は自律志向性、(C) はコントロール志向性、(I) は動機づけ喪失志向性の文章(項目)であることを示す。得点は右側の選択された数字の通りである。